

関西圏の大学におけるスポーツ施設のサービス提供の現状

長尾 将 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)
指導教員 小笠原 悦子

スポーツ施設 サービス 大学

1. 緒言

国公立および私立の各大学は、生き残りをかけた改革を迫られ、地域社会に根ざした大学づくりが求められている。なかでもスポーツを利用した地域貢献は社会的ニーズが高い。

スポーツ環境や、蓄積された専門知識が整っているのが大学の強みであり、スポーツを通じた地域への貢献はスポーツ専門の学部や研究科を持つ大学だけが進めているものではない。さらに、近年ではスポーツマネジメントという分野が認知されてつつあり、多くの大学で関連学部の新設が相次いでいる。また、学生がスポーツ教室やイベントなどの運営に携わることを後押ししているほか、企画自体を学生が構想・立案するケースも出てきている。

そこで本研究では、関西圏の大学に焦点を当て、大学のスポーツ施設の数、一般への開放、他団体との提携など、各大学のスポーツ施設サービスの現状を把握することを目的とした。また、欧州のような大学のスポーツ施設のマネジメントを民間に事業委託し、受益者負担による運営についての可能性についても検討した。

2. 研究方法

【調査対象】

関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学及びスポーツ系大学（びわこ成蹊スポーツ

大学、大阪体育大学）2校の計6校であった。

【調査方法】

各大学のスポーツ施設の管理者に聞き取り調査を行い、同時に施設の見学、資料の収集を行った。

【調査項目】

- 1) 現状の施設数と今後設置予定の施設
- 2) 一般へのスポーツ施設の開放
- 3) 他団体との連携
- 4) スポーツ施設を利用した地域貢献活動
- 5) スポーツ施設の開放または他団体との連携と大学PRの可能性
- 6) スポーツ施設のマネジメントを民間へ事業委託の可能性

3. 結果と考察

表1は、各大学のスポーツサービスの概要を示したものである。結果から、PRの項目を除いた全ての項目において、各大学によって相違がみられ、大学独自の取り組みや、地域貢献活動を行っていることが明らかになった。

4. まとめ

本研究によって、関西圏の大学におけるスポーツ施設のサービスの現状が明らかとなった。スポーツ施設のマネジメントを民間への事業委託と運営の可能性についても明らかとなり、大学からスポーツを普及させるムーブメントがスタートしていることが確認された。

表1. 各大学のスポーツサービスの概要

大 学 名	関西学院大学	関西大学	同志社大学	立命館大学	びわこ成蹊スポーツ大学	大阪体育大学
施設数	36	25	36	18	13	17
設置予定の施設	なし	なし	なし	非公開	テニスコート	なし
一般への施設の開放	授業と課外活動で他に回らない	アイスアリーナ	・KDSCに各施設を開放 ・公的団体にも開放	草津市や近隣住民を対象に開放	・BSCIに各施設を開放 ・独自の施設開放	授業と部活動で他に回らない
他団体との連携	していない	高槻市	・京田辺市 ・京たなべ同志社 スポーツクラブ(KDSC)	・滋賀県 ・草津市	BIWAKO SPORTS CLUB (BSC)	していない
施設を利用した地域貢献	・福祉協議会の グランドゴルフ ・少年野球 ・各部スポーツ教室	各部スポーツ教室	・KDSCによる活動 ・厚生年金会館を 買い取り一般に開放	・各部スポーツ教室 ・クラブチームの指導 ・京都市内(少年野球) で立命カップ開催	・BSCIによる活動 ・大学独自の取り組み	・トップスポーツクラブ ・スポーツキャンプ
スポーツ施設の開放または他団体との連携と大学PRの可能性	考えていない	考えていない	抑えたい	考えていない	考えていない	していない
スポーツ施設のマネジメントを民間へ事業委託	ない	NPO法人化を目指す	NPO法人化を目指す	現状の取り組みを維持し、可能性はない	将来的にはゼロではない	全くない